

クイズの答え

- ① **いきいきニーハオの会** (横浜市泉区)
中国帰国者たちが集い、踊りや楽器、太極拳などを楽しむグループ。
イベントで水餃子の販売も行なっている。
- ② **あいさつロード** (横浜市泉区)
40の国・地域の住民が住む県営いちょう団地。小学校の壁には、各言語の代表的なあいさつとモチーフが描かれている。
- ③ **在日ネパール人による炊き出し** (東北地方各地)
被災地で、カレーの炊き出しやマッサージを行なった。日本に住むネパール人の数は近年増加している。
- ④ **在日ブラジル人の誕生日会** (横浜市鶴見区)
子どもの1歳と女性の15歳の誕生日を盛大に祝うブラジルの習慣は日本でも引き継がれている。
- ⑤ **日本のまつり** (川崎市川崎区)
在日コリアンが多く住む桜本地区では、毎年11月に行なわれる商店街の祭りはブンムルノリ (朝鮮半島に古くから伝わる伝統芸能) で盛り上がる。
- ⑥ **在日ラオス文化センター** (愛川町)
日本に住むラオスの人々の寄付によって完成。ラオスから招いている僧侶とともに毎年4月にお正月を盛大に祝う。
- ⑦ **モスク** (海老名市)
パキスタン、スリランカ、バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、アラブ諸国やアフリカの国々など出身のイスラム教徒が集う場となっている。
- ⑧ **アートワークショップ** (藤沢市)
スペイン語でミサを行なうカトリック教会で開かれたワークショップにはペルーやアルゼンチン出身の人々が参加し大いに盛り上がった。
- ⑨ **フィリピンコミュニティ・アジアJ** (横浜市磯子区)
フィリピン文化を歌や踊りを通して紹介しているグループ。グループ名にはアジアと日本と結ぶという意味を込めている。



公益財団法人 **かながわ国際交流財団**
Kanagawa International Foundation

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8 第一安田ビル4階

TEL ▶ **045-620-0011** FAX ▶ **045-620-0025**

メールアドレス ▶ **tabunka@kifjp.org**

URL ▶ **http://www.kifjp.org**

※このパンフレットは「多言語情報」「防災・減災」「健康・保健」「出産・子育て」というテーマでも発行しています。財団のホームページでもダウンロードできますので、ご活用ください。



ここはどこでしょう?
何をしている
ところでしょう?

多文化クイズ



(答えは裏面にあります)



公益財団法人 **かながわ国際交流財団**
Kanagawa International Foundation

神奈川県に住む外国籍の人々

国・地域	数	国・地域	数	国・地域	数
1 中国	53,120	8 タイ	3,623	15 スリランカ	1,375
2 韓国・朝鮮	31,047	9 インド	3,544	16 ラオス	1,223
3 フィリピン	18,086	10 台湾	2,959	17 マレーシア	981
4 ブラジル	8,998	11 インドネシア	1,665	18 パキスタン	940
5 ペルー	6,780	12 ネパール	1,585	19 その他	13,325
6 ベトナム	6,694	13 カンボジア	1,573	合 計	163,906
7 米国	4,881	14 英国	1,507		

(法務省ホームページより作成 2013年6月)

神奈川県に暮らす外国人住民の数は、リーマンショック(2008年)や東日本大震災(2011年)の影響で一時減少しましたが、2013年には増加に転じました。来日経緯や職業、言語などは非常に多様ですが、家族をもち、定住化する傾向にあります。

●中国

19世紀から世代を重ねる華僑の人々のほか、留学生、研修生、国際結婚、中国帰国者、子どもの呼び寄せなど来日経緯も多様で数が増えています。

●韓国・朝鮮

オールドカマーと呼ばれる戦前から生活する在日コリアンの人々や、留学、国際結婚で来日する人もいます。日本国籍取得や国際結婚の増加で人数は微減しています。

●フィリピン

女性の比率が高いのが特徴で、日本人と結婚して日本で子育てをする人も少なくありません。ビサヤ語などタガログ語以外の言語話者も増えています。

●中南米(ブラジル、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、ドミニカ共和国など)

1990年の入管法改正後、日系人を中心に急増。リーマンショック後に帰国する人もいましたが、定住傾向が強く、日本生まれの子どもも多いです。

●インドシナ三国(ベトナム、ラオス、カンボジア)

神奈川県には1998年までインドシナ難民を受け入れる大和定住促進センターがあったことから、現在でもインドシナ三国の人々の数は全国で最も多くなっています。

◎「かながわ・こみゆにてい・いんふおめーしょん」

県内の外国人コミュニティ紹介しています。

<http://www.kifjp.org/kcinfo>

あなたの地域の外国人の声を聞くには？

① フィールドワークに出かけよう

同じ国や地域出身の人々が集住する地域には、特有の食材が買える店やレストランがあります。多言語のミサを行なう教会や寺院、外国人学校など、その地域の多文化を感じてみませんか？ 新年を祝う文化的行事や日本語教室などに足を運び、外国人コミュニティの人たちと知り合えば、生活の様子や課題について知るきっかけにもなります。

② 外国人の思いや意見を知る機会をつくろう

「外国籍県民かながわ会議」をはじめ、県内の複数の自治体で、外国人住民の声を施策に反映させるための会議が設置されています。外国人住民から直接意見を聞くことができ、よりよい行政サービスを考えるための有効な機会となっています。

③ 職員研修にゲストとして協力をお願いしよう

外国人住民の方の協力を得て、体験談を聞く職員研修を開くこともできます。



あなたの地域の外国人と日本人住民との接点をつくるには？

県内の国際交流ラウンジや日本語教室ではさまざまな活動が活発に行なわれており、情報交換や相互理解の場ともなっています。

◎ かながわ・こみゆにてい・ねっとわーく・さいと「他機関へのリンク・連絡先など」

神奈川県内の主な国際交流協会・国際交流関係施設、ラウンジなどを紹介しています。

<http://www.kifjp.org/kcns/link>

④ イベントを企画してみよう

多文化の素晴らしさ、おいしさを堪能できる国際交流フェスティバルや料理教室は交流の第一歩として人気があります。企画段階から外国人住民の参加・協力があれば、多様なアイデアを活かし、日本社会との接点づくり、社会参画につながります。



平塚市では市内に暮らす外国人が主体となって毎年「ひらつかワールドフェア」が開催されています。